

短期間の治療実績ではあるが、設計原則と口腔内状態に基づく適応症の判断と、患者への十分な説明があれば、義歯治療の選択肢になり得ると考える。

ノンメタルクラスプ義歯の短期的評価 ー歯科衛生士の立場からー

工藤百恵（附属歯科診療所DH）

鴨井公子（附属歯科診療所DH）

ノンメタルクラスプ義歯を装着した患者のうち、担当した3名の義歯装着後1～2年間の歯周組織の経過について報告した。

【症例1】70歳男性，平成16年2月初診，平成22年4月に上顎右側大臼歯部に義歯を装着したところ，快適性や咀嚼機能は良好であった。歯周治療に対するモチベーションが高く，月2回の歯周メンテナンスを継続し，歯周組織の状態は1年間おおむね維持できていた。

【症例2】65歳女性，平成17年7月初診，平成23年6月に下顎両側臼歯部に義歯を装着し，症例1と同様に経過は良好であった。全体的に重度の歯周病であったが，月1回の歯周メンテナンスで，軽度の支台歯には悪化はなかった。

【症例3】75歳男性，平成16年2月初診，平成20年10月に下顎右側大臼歯部，11月に下顎左側大臼歯部に義歯を装着し，同様に経過は良好であった。月1回の歯周メンテナンスで，装着時から2年後の支台歯と歯周組織の状態は良好に維持できていた。

義歯の構造設計上支台歯の辺縁歯肉を広く被覆するが，歯周疾患が認められない患者では口腔内の状況は維持され，歯周疾患があってもノンメタルクラスプ義歯を装着したことによる悪化はなかった。